



スズキグループ環境社会報告書 2015 Sustainability Report



## 資源リサイクルに「国境」はない 国内外で、質と量の両面から新たな挑戦を続ける

「少しでも多くの廃棄物を再資源化し、環境を守り、社会に貢献する」――。  
スズトクグループは、この変わらぬ思いの下で総合リサイクル事業を展開してきました。

そうしたなか、私たちを取り巻く状況は大きく変わりつつあります。国内では、都市化の進展や技術の進歩により、廃棄物の種類がますます多様化しています。また発展著しい東南アジアをはじめとする新興国の資源需要が増加する反面、増え続ける廃棄物を適正処理するための仕組みづくりは遅れており、大気や土壌などの汚染が深刻化しているのです。

「総合リサイクル事業で社会に貢献する」という変わらぬ思いを貫くためには、こうした状況の変化に対応することが求められます。つまり、「多品種」かつ「大量」のリサイクルニーズにお応えしうる規模と組織体制を備えた企業になることが必要なのです。

そこで当グループは、今こそ、新たな挑戦の一步を踏み出すときだと決断しました。

具体的には、6リサイクル事業者と包括業務提携を締結。共同で処理量や取扱品目の拡充、人材育成・技術開発の高度化を図っています。また、2014年7月に設立したタイでの合併事業も継続的に強化。現地における資源の有効活用、いっそう貢献できる企業になるべく、体制を整え、さらなる飛躍に備えています。

大切なのは、現場やお客様と対話を繰り返し、社会のニーズを見据えながら、新たな領域にも臆することなく踏み出していくこと。豊かな地球環境を次の世代に残すため、スズトクグループはこれからも挑戦し続けます。

### 松岡 直人

スズトクホールディングス株式会社  
代表取締役社長 グループCOO

### 鈴木 孝雄

スズトクホールディングス株式会社  
代表取締役会長 グループCEO

## スズトクグループ3つの願い

「持続可能な社会をつくる」

「社会に信頼され、地域に貢献する」

「社員が誇れる会社になる」

リサイクルの未来を拓くため、  
今年度もスズトクグループはさまざまな取り組みを行ないました。  
本冊子では、事業活動の成果と、取り組みの具体的な内容について  
グループが掲げる「3つの願い」とともに紹介します。

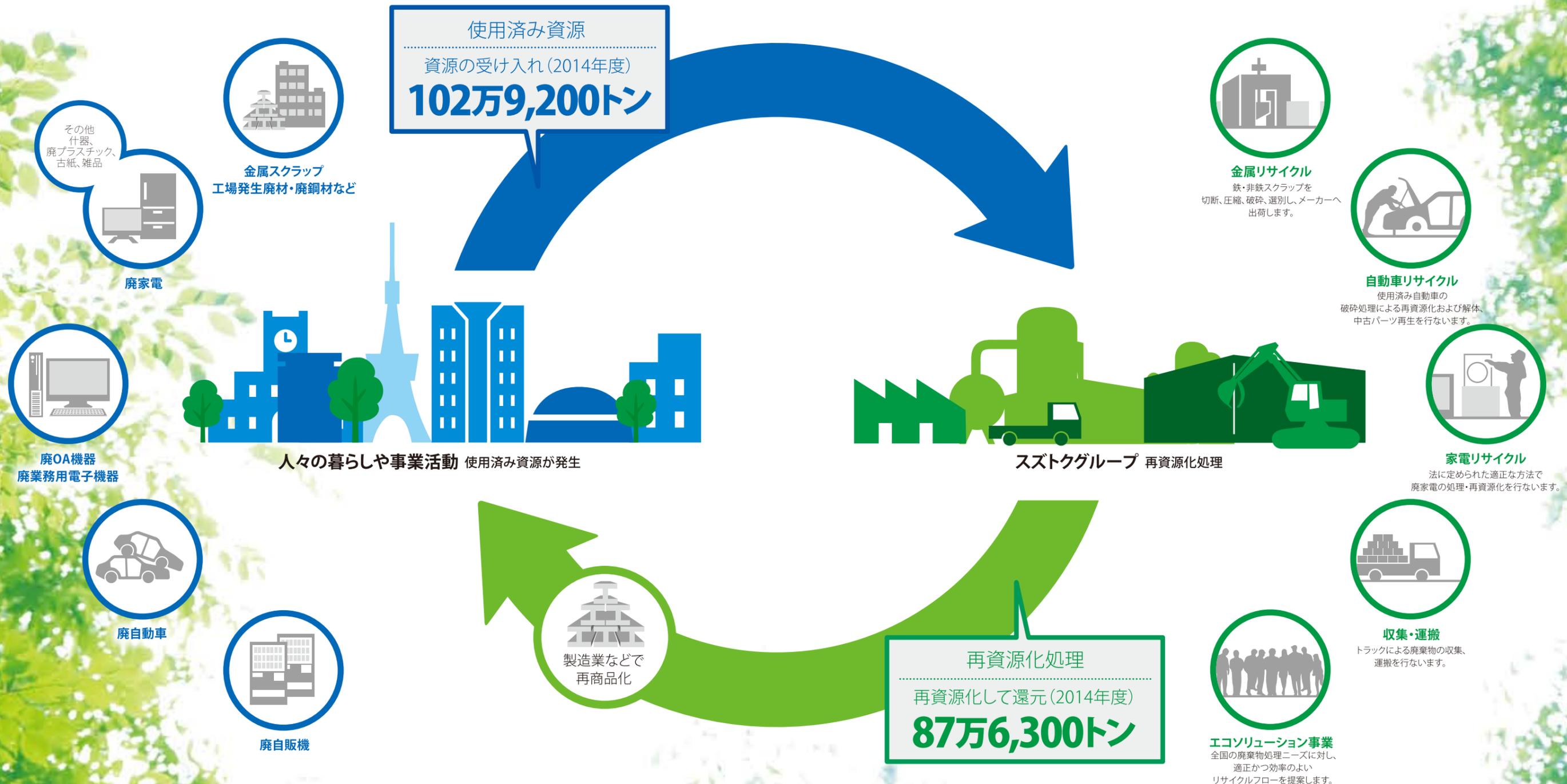
## Contents

Top Commitment …………… P2		
「持続可能な社会をつくる」	「社会に信頼され、地域に貢献する」	「社員が誇れる会社になる」
スズトクグループの事業 …………… P4	コンプライアンスの徹底 …………… P12	労働安全衛生の確保・推進 …………… P16
2014年度 資源リサイクルの全体像 …… P6	Special Contents	Special Contents
環境マネジメントシステムについて …… P8	「渡良瀬遊水地」清掃レポート …… P13	再考・事故予防の勘所 …………… P18
Special Contents	Special Contents	Special Contents
「環境マネジメントシステム」座談会 …… P10	コミュニケーションマップ2015 …… P14	365days 現場の声 …………… P20
		Special Contents
		THE SUZUTOKU TIMES …………… P22
		スズトクグループ企業理念、概要・会社紹介 …… P23
		第三者意見 …………… P27

## スズクグループの事業

多様な廃棄物を扱う総合リサイクル事業を展開。  
8つの事業会社の強みを生かし、  
限りある地球資源の有効活用に貢献しています。

人々の暮らしや事業活動から発生する廃棄物を、いかに減らすか——。住みやすい地球環境を今後も維持するために、これは避けて通れない課題です。スズクグループは、「総合リサイクル企業」として、多種多様な資源の有効活用を推進。グループ各社の強みを生かし、高度循環型社会の早期実現に貢献しています。



# 2014年度 資源リサイクルの全体像

「多種多様な使用済み資源を、再び使える状態にして社会へ還元する」。  
 スズクグループは、この使命の下で事業活動を展開しています。  
 同時に、リサイクル処理にともなうエネルギーや、発生廃棄物(残渣)の削減にも注力。環境負荷の抑制に努めています。

## グループ全体の受け入れ資源量および再生資源量



## 事業活動にともなう発生物

再資源化処理の過程では、どうしてもリサイクル不可能なもの(残渣)が発生します。これを正しく処理し、事業活動による環境負荷を低く抑えることも、リサイクル事業者の欠かせないミッションです。  
 スズクグループでは、残渣を適切な手法で回収したうえで、処理を外部事業者へ委託。外部事業者は、焼却、埋立、破壊(フロン)といった方法で適正処理を行なっています。今年度の発生廃棄物量と処理方法は右表のとおり。受け入れ/再生資源量の減少にともない、こちらも昨年度より減少しています。

発生廃棄物量と処理方法	
処理方法	量
焼却	110,900t
埋立	48,500t
破壊(フロン)	190t
合計	159,590t

再資源化物の還元率 > **約85%** ※ を社会に還元

※還元率(%)は「再生資源量÷(再生資源量+発生廃棄量)×100」で算出

## 2014年度の環境投資

今年度の環境投資額は12億5,500万円です。昨年度と同程度の投資を行なうことで、いっそうのリサイクルサービス高度化に向けた取り組みを継続しました。  
 たとえば、メタルリサイクル(株)ではミックスメタルなどから有価物を回収する「メタルソータ」を、(株)鈴徳 児玉営業所では「マルチセンサー選別機」をそれぞれ導入。より多くの有価物を回収できる仕組みを整え、外部業者に処理委託する量を減容するとともに、リサイクル率の向上に貢献しています。  
 ※詳細はP22で紹介しています。

2014年度環境投資		
区分	金額 (単位:百万円)	主な投資内容
公害防止	40	防音壁、クーリングタワー
環境保全	19	フロン回収設備
資源循環	1,196	選別機、スクラップシャー、シュレッダー設備
合計	1,255	

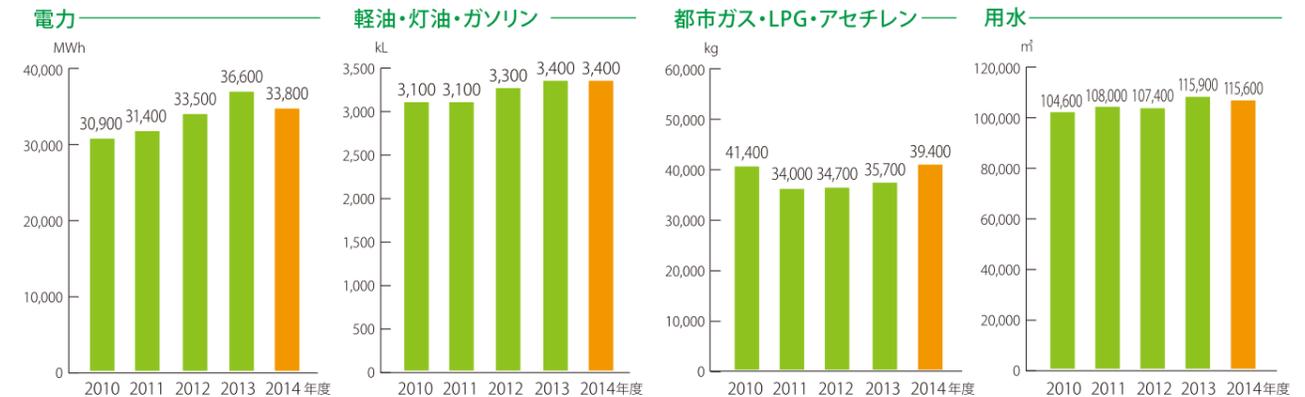
※各社直近の決算数値から集計

## 事業活動に使用したエネルギー

安定的なリサイクル処理を実現するうえで、機器を稼働するための各種エネルギーや用水が欠かせません。そこでスズクグループでは、設備の稼働体制見直しや、人員配置の最適化など、エネルギー使用量を低く抑えるための取り組みも継続的に実施しています。  
 今年度は、電力と用水の使用量を昨年度より削減。それ以外は、横ばいか微増で推移しています。

事業所のエネルギー等使用量		省エネ法への対応	
種類	量	特定事業者	エネルギー使用量(2014年度、原油換算)
電力	33,800 MWh	鈴徳	2,432 kL
軽油・灯油・ガソリン	3,400 kL	中田屋	2,935 kL
都市ガス・LPG・アセチレン	39,400 kg	フェニックスメタル	2,858 kL
用水	115,600 m <sup>3</sup>		

省エネ法では、企業全体のエネルギー使用量が1,500kL/年以上の企業を「特定事業者」に指定。エネルギー使用の把握と管理を義務付けています。グループのうち、特定事業者に該当するのは上記3社です。



## 事業活動で排出されるCO<sub>2</sub>

再資源化処理のために稼働中の設備や、廃棄物運搬用のトラックなどからは、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)が発生します。これを削減することも、環境負荷の低減のためには重要です。今年度の事業活動で排出されたCO<sub>2</sub>量は、昨年度より1,500t-CO<sub>2</sub>減少し、26,300t-CO<sub>2</sub>でした。

### CO<sub>2</sub>排出量

エネルギー使用にともなうCO <sub>2</sub> 排出量	26,300 t-CO <sub>2</sub>
再生資源出荷量当たりのCO <sub>2</sub> 排出量	0.030 t-CO <sub>2</sub> /t



※t-CO<sub>2</sub>/t換算係数の変更について 2014年度より、電力のt-CO<sub>2</sub>/t換算係数が0.000525から0.000530に変更になっています(2014年12月の環境省の報道発表資料に基づく)。

# 環境マネジメントシステムについて

明確な環境方針と組織体制の下、グループ全社がISO14001に適合した環境マネジメントシステム (Environmental Management System:EMS) を整備しています。そのうえで、各拠点は年度ごとの目標を設定。EMSのさらなる高度化に向けて取り組んでいます。

## スズクグループの環境方針

総合リサイクル事業では、事業の高度化がそのまま環境保全に結びつくという特性があります。そこで、スズクグループでは指針となる環境方針を以下に策定。リサイクルサービス自体を絶えず強化・拡充することで、環境保全につなげることを理念としています。

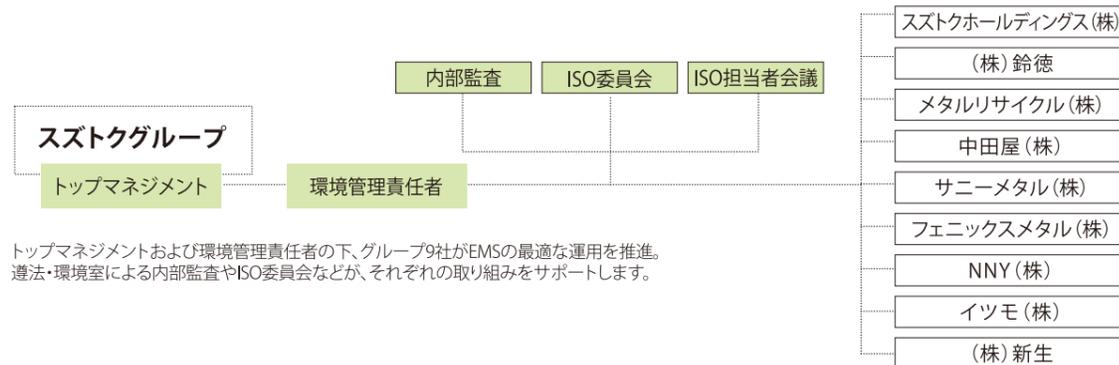
### 基本理念

地球温暖化を始めとする地球環境問題は深刻さを増し、それらへの対応は人類共通の重要課題となっている。このような状況に対し、スズクグループはリサイクル事業と廃棄物処理事業の推進により循環型社会の形成に貢献することが総合リサイクル業としての社会的使命であると認識し、地球環境及び地域環境の保全と環境負荷の低減に向けて積極的な施策を推進する。

### 基本方針

- 1 ISO14001に適合する環境マネジメントシステムを運用し、継続的に改善するとともに、汚染の予防に努める。
- 2 当グループの業務に関する法的要求事項及び当グループが同意するその他の要求事項を順守する。
- 3 業務を通じて一人ひとりが知恵を出し合い、以下に取り組む。
  - ① 資源回収の充実とリサイクルの高度化
  - ② 地域社会への貢献
  - ③ 省資源・省エネルギー・廃棄物の削減
  - ④ 安定した資源リサイクル

## EMS運用のための組織体制



トップマネジメントおよび環境管理責任者の下、グループ9社がEMSの最適な運用を推進。遵法・環境室による内部監査やISO委員会などが、それぞれの取り組みをサポートします。

## グループ全体のさまざまな取り組み

例年同様、今年もEMSの運用を高度化するため、遵法・環境室が内部監査を行ないました。結果は、良好34(37)件、観察25(32)件、修正20(19)件、是正0(0)件でした(カッコ内は前年度)。

また新しい取り組みとしては、この内部監査に、各拠点のISO担当者が同行する仕組みの運用を開始。他拠点の取り組みを見ることで、環境負荷を抑えた拠点運営に必要なことを学ぶ機会としています。こうした社員教育の取り組みは、今後もEMSの重要項目に据えていく予定です。

※取り組み内容はP10でも紹介しています。



放射線測定

廃棄物は、受け入れ前に放射線強度を測定。ハンディタイプの測定器のほか、車両全体を測る据え付け型の設備も使用し、品物の安全を確認しています。万一、高い数値が認められた場合は、その品物は受け入れない体制を整えています。



## 各拠点の目標設定と達成率 (2014年度)

今年度もグループ各拠点が目標を設定し、環境保全活動に取り組みました。

環境方針	個々の事業所で掲げた主な目標	環境方針	個々の事業所で掲げた主な目標
省エネ・省資源・廃棄物削減 達成率 <b>85.7%</b> 6件 / 7件	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 廃棄物運搬車両導入による手順の作成および順守</li> <li>● 2010年度比で電力使用量5%削減</li> <li>● 前年度以上のダストからの非鉄回収</li> <li>● デマンド導入による契約電力値の選定/節電</li> <li>● 燃費向上のための低排出ガス車の導入 ほか全7件</li> </ul>	法令順守・汚染の予防 達成率 <b>100%</b> 6件 / 6件	<ul style="list-style-type: none"> <li>● フロン漏洩ゼロ</li> <li>● 重電機器受入手順遵守</li> <li>● 放射線汚染物受入禁止</li> <li>● 禁忌品受入の徹底</li> <li>● 場内路盤修繕による汚染予防 ほか全6件</li> </ul>
資源回収の充実とリサイクルの高度化 達成率 <b>94.4%</b> 17件 / 18件	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 前年度以上の非鉄売上数量</li> <li>● 前年度以上の有価物回収</li> <li>● 未取引先営業活動30件/月</li> <li>● 3カ月に1回の自治体への小型家電営業</li> <li>● 水選別施設の安定操業 月平均95h稼働 ほか全18件</li> </ul>	地域社会への貢献 達成率 <b>100%</b> 11件 / 11件	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 社会貢献 3回/年以上</li> <li>● 企業団地内の不法投棄撲滅</li> <li>● 地域活動 4回/年以上</li> <li>● 工場周辺の毎週清掃</li> <li>● トラック駐車場の整理・整頓・清掃 ほか全11件</li> </ul>
安定した資源リサイクル (危機管理) 達成率 <b>100%</b> 5件 / 5件	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 近隣住民からの騒音・振動に関するクレームゼロ</li> <li>● 重大事故ゼロ</li> <li>● 施設設備故障による受入制限ゼロ ほか全5件</li> </ul>	継続的改善 達成率 <b>93.8%</b> 15件 / 16件	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 個人目標設定 前年度目標に加え1人1件以上/年</li> <li>● 遵法教育 (外部講習3人以上/年)</li> <li>● 職場環境業務改善 (問題点・改善提案:1人1件/年)</li> <li>● 業務改善または環境改善の個人目標設定 (1人2件/年) ほか全16件</li> </ul>

## 総合評価

今年度は9社22拠点で63件の目標を設定し、60件(95.2%)が目標を達成しました。目標未達成のものは、導入設備の生産ライン改善に取り組んだものの効果が得られなかったもの、受入の状況変化に影響を受けたもの、管理体制不備によるものなどでした。

また今年度の目標設定の傾向は、63件中18件(28.6%)が「資源回収の充実とリサイクルの高度化」に関するもので、その割合は

前年より減少しました。一方、「継続的改善」は16件(25.4%)と増加。その内容においては遵法や安全などの教育に関する目標が多く設定されていました。グループでは今後も業務に直結した目標設定とその達成手段を推進し、環境活動の取り組みを行なっていきます。

# 拠点の全員が目標意識を共有 それが全社のEMS高度化につながる

## 「環境マネジメントシステム」座談会

環境保全に向けたさまざまな施策を自立的に回す仕組み、それが「環境マネジメントシステム(EMS)」だ。スズクグループ各社は毎年、拠点ごとに環境保全に向けた目標を設定し、達成に向けて取り組んでいる。そこで今回は、各拠点でEMSを推進するISO担当者と、全社の取り組みの改善状況を確認する遵法・環境室の担当者が、取り組みの重要性や難しさについて話し合った。

### 事業活動がそのまま環境保全につながる

—スズクグループは、EMSの継続的な取り組みを実施しています。具体的に、各拠点ではどんなことを行なっているのですか。

**吉住** 私が所属する加須工場では、「騒音・振動クレームゼロ」を目標に掲げ、達成し続けています。結果は毎年同じ「ゼロ」ですが、取り組み内容は継続的に強化。たとえば、防振スプリングの定期的な点検や、半年に1度の騒音振動測定などを実施しています。

工場では、荷物の積み込み・荷下ろし、フォークリフトで構内を移動するといった、あらゆる場面で騒音・振動が発生します。これらを抑制することは、地元地域との共存を図るうえでも非常に大事なことです。そのため、この目標は欠かさず毎年設定し、管理レベルを継続的に引き上げています。

**高橋** 当営業所では「赤札運動」を行ないました。これは、使われていない工具などに赤いシールを貼り、廃棄またはリユースに回す、「ムダ削減」の取り組み。あえて別部署の人間がチェックすることで、普段気づけないムダまで洗い出しています。実施前/後の写真を貼り出すことで、整理整頓と備品購入費の削減を実現しました。

—取り組みを進めるうえでは苦労もあると思います。印象に残っているものはありますか。

**鈴木** 設備の稼働率を上げ、スムーズな処理を実現するため、「現場職が作業に必要な資格を全員が取得する」という目標を立てたときのことです。資格を取るには講習を受ける必要がありましたが、当営業所の現場担当者は5人。誰かが講習に出る間、作業が滞ることがわかりました。

そこで私は、最も作業が遅れない人員配置を検討。事務所スタッフにも現場に加わってもらい、現場社員の受講時間を確保

しました。人数が少ないと無理をしがちですが、焦らず作業を進め、無事故で終えたときはほっとしたことを覚えていますね。

**佐久間** 私は、「拠点全員が達成意識をどう共有するか」ということにいつも苦労しています。グループの収集運搬を担当する当社は、車両75台を保有しており、月間14万リットルの軽油の使用削減・燃費向上を毎年目標に掲げています。しかし、台数が多いため、ドライバーは「自分一人くらいいいだろう」と気を緩めがちなのです。

そこで当社は、いろいろ試した結果、「ドライバーの表彰制度」を設けることにしました。各ドライバーが、前年度の自分と比べて何パーセント燃費を向上できたか。これを数字で発表したところ、継続的に燃費向上を意識してくれるドライバーが増えました。

**吉住** 数字で伝えるのはいいアイデアですね。ぜひ当工場も参考にしたいです。

**鈴木** 私も、「達成意識の共有」はEMS運用のカギだと思います。私が実践しているのが、「働きやすい現場をつくる」「清潔な事務所環境を維持する」といった、身近な視点で目標を考えることです。なぜなら、現場では作業の安全や、迅速なお客様対応といったことが最優先。「環境保全のため」といった大きな視点の目標は、なかなか意識し続けるのが難しいからです。

**山田** われわれ遵法・環境室は全社の取り組みを改善実施す

る立場ですが、確かに鈴木さんが話したことは大事ですね。本業とかかわりの深いことを目標にすることは、「事業活動がそのまま環境保全につながる」という、当グループのEMSの基本方針にもつながっています。

### 達成して終わりではなく、継続する

—EMSに取り組む意義をどうとらえていますか。

**高橋** 環境保全にしっかり目を向けていれば、事業所周辺の住民の方や、お客様からも信頼されます。そのためにも、取り組みは単年度で終わらせず、定着させることが大事だと思います。

**佐久間** 同感です。当社も、「車庫の草刈り」に関する目標を達成したあと、次の年度も続けるよう、互いに声をかけ合いました。

**吉住** 山田課長も言われたとおり、総合リサイクル業では「EMS＝本業」。私は、社員一人ひとりが正しくEMSを理解することが、さらなる事業の高度化につながると思います。目標達成をゴールにせず、その先も考えることが大事ですね。

**山田** やるべきことはたくさんありますが、悩んだときこそ、シンプルに「会社をよくするにはどうすればいいか」ということに立ち返ってほしいと思います。この意識を全拠点が持てば、グループのEMSはおのずと高度化されていくはずですよ。



メタルリサイクル株式会社  
ELV事業部 千葉営業所 所長  
高橋 克



中田屋株式会社  
加須工場 係長  
吉住 祐輝



スズクホールディングス株式会社  
遵法・環境室 課長  
山田 圭一



株式会社 鈴徳  
浦和営業所  
鈴木 誠



イツモ株式会社  
係長  
佐久間 貴志



## コンプライアンスの徹底

Compliance

Special Contents

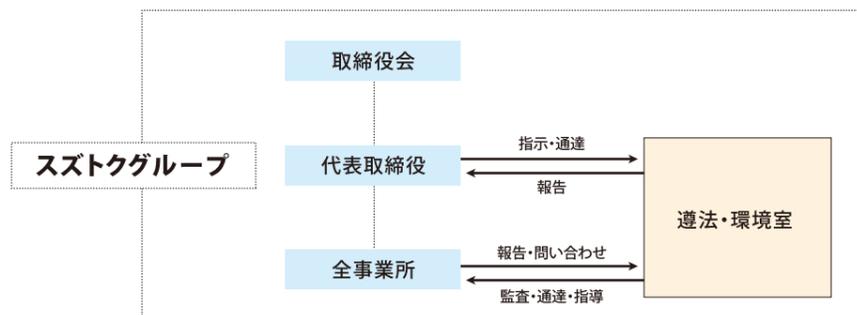
事業を継続し、環境・社会により大きく貢献するため欠かせないのが「法令遵守(コンプライアンス)」です。スズクグループは、そのための専門部署として「遵法・環境室」を設置。定期的な内部監査や社員教育を通じ、事業活動の適法性を担保しています。

### スズクグループの遵法を司る「遵法・環境室」

全社のコンプライアンスを管理し、適正処理を徹底する部門が遵法・環境室です。この遵法・環境室では、年に1回の「遵法監査」を実施。担当者が現場を訪れ、品物の保管状況や、書類の管理体制などが法に則って行なわれているかをチェックリストに基づき確認しています。万一、不備があった場合は対策などを指導し、後日再訪問することで改善状況を確認。法に則ったグループの業務を担保しています。

また遵法・環境室は社員への法知識教育や、法律に関する各拠点からの問い合わせへの対応なども実施。さらに、廃棄物関連の書類や、各拠点が保有する許可期限なども一元管理し、現場業務を支援する役目も果たしています。

### コンプライアンス確保のための体制



遵法・環境室は、全グループのコンプライアンスを管理する独立した部門として設置。監査の実施のほか、グループ各拠点からの法律に関する問い合わせにも対応しています。

### 2014年度の取り組み

#### 「遵法監査」の結果について

今年度の遵法監査の指摘事項総数は38件。昨年度の56件に比べて18件の減少となりました。2012年度は70件だったため、ここ数年は減少傾向にあります。指摘項目の改善状況は、後日遵法・環境室のスタッフが現場を再訪問して確認。最終的に、全数の改善が確認されています。

#### 処理委託先の監査や社員への法知識教育なども実施

そのほかにも、遵法・環境室ではさまざまな取り組みを実施しました。たとえば、グループが排出事業者責任を果たすため必要な、廃棄物の処理委託先の訪問監査を実施。今年度は47社を訪問し、マニフェストや各種帳票の管理状況などを厳正に監査しました。

また今年度は、社員の法知識教育に関する取り組みを強化。座学による研修のほか、自拠点以外のEMS内部監査への同行研修といった取り組みも行ないました。こうした取り組みは、来年度以降も継続的に強化していく予定です。

#### 監査や社員教育によりコンプライアンスを徹底



現場内の廃棄物の保管方法や処理設備の管理状況のほか、重要書類の管理体制についてもチェックしています。また、個々の社員の法知識レベルを底上げするため、定期的な社員教育も実施しています。



#### マニフェスト管理システム



産業廃棄物処理の管理伝票「マニフェスト」を一元管理する独自システムです。これにより、扱った品物の種類・数量などを正確かつ効率的に管理し、過去の履歴にもさかのぼれる体制を整えています。

## 憩いの場を、いつもキレイに! 「渡良瀬遊水地」清掃レポート

地域社会との共生を目指し、スズクグループは環境美化活動を積極的に行なっています。

今回は、栃木・群馬・茨城・埼玉の4県の県境にまたがる「渡良瀬遊水地」で清掃活動を実施。その模様を紹介します。



まだ冷たい春の風が吹き抜ける4月、快晴の土曜日に、近隣に拠点を構えるグループ各社の社員が、渡良瀬遊水地に集結しました。

渡良瀬遊水地は面積33km<sup>2</sup>、山手線の内側の約半分に相当する広大な湿地帯です。そのため参加者は、ゴミを見逃さないように、土手の上と下など、手分けをしながらゴミを拾っていきました。「毎日行なっている事業所周辺の掃除とは、広さがケタ違い。足腰が鍛えられますね」と参加者は話します。

休日ということもあり、今回は家族で参加した社員もいます。ゴミを見つけては、子供にその種類を質問します。「たばこの吸い殻は、燃えるゴミ。こっちは空き缶だから、燃えないゴミ!」。楽しく当てっこをしながら、ゴミ分別の大切さを学びます。はじめはなかなかママの脇を離れられなかった女

の子も、最後には一人でゴミ探しができるようになりました。

土手をひと通り歩ききったら、清掃活動は終了。見つけたゴミの中には、長靴やつり道具、サッカーボールといった“大物”も散見されました。同じ日に清掃活動を行っていたほかのグループと共同で、指定の回収場所にこれらを集めます。カゴが満載になるくらい、たくさんのゴミが回収できました。

「ここは、グラウンドやテニスコートなどもあり、多くの人々が利用する憩いの場所。リサイクル企業の社員、また地域住民の一人として、今後もこうした活動は積極的に行なっていきたいですね。自然豊かで、多くの動植物の生息の場でもある渡良瀬遊水地の環境保全に少しでも役立ちたい——。あらためてそうした思いを強くする一日となりました。



キレイに見えても、草むらの奥にはゴミが。手でかき分けて拾います。「すみずみまでキレイにすると達成感がありますね。また、ゴミ拾いも、子供にかかれば楽しい遊び。「見つけた! 私が拾う!」。元気な声が、土手に響いていました。

# スズクグループ コミュニケーションマップ 2015

地域に愛され、親しまれる企業であるために、グループ各拠点はさまざまな社会貢献活動を実施しています。今年度の活動の一部をご紹介します。

### 1 工場見学、体験学習の受け入れ

「開かれた工場」であることは、グループが大事にしていることの一つです。そのため活動として、今年度も工場見学などを積極的に受け入れました。

たとえば、サニーメタル(株)では、2011年から行なっている海外の環境関連調査員や技術者に向けた工場見学会を今年度も実施。ギアナ、ラオス、ミャンマーなどから訪れた全12名の参加者から、リサイクル技術に関する質問がたくさん寄せられました。

またNNY(株)では、障がいのある方の社会参加を支援するため、体験学習の申し込みを継続的に受け入れています。今年度は高校生1名を受け入れ、社員の指導の下、約2週間の体験学習期間に、回収金属から損貨を選別する作業などを行なってもらいました。




### 2 「彩の国工場」に指定

技術力や環境面に優れ、他工場の模範となる企業を指定する埼玉県の施策「彩の国工場」。今年度、メタルリサイクル(株)がその指定を受けました。

2014年10月に行なわれた指定式には、同社社長の島元 和生が出席し、上田 清司・埼玉県知事より楯を受けました。今後は、指定企業間での情報交流も行ないながら、一層、安心して処理をお任せいただける拠点づくりを目指していきます。



### 3 各種認定証／感謝状を受ける

グループ各拠点の取り組みに対し、所属する自治体／団体から賞状などが送られました。

たとえば、(株)鈴徳 児玉営業所では2013年から行なっている障がい者雇用の取り組みについて、埼玉県から「障害者雇用優良事業所」の認定を受けました。また、中田屋(株)加須工場は、毎年行なっている地域振興募金に今年も協力。加須市社会福祉協議会から感謝状を受けました。

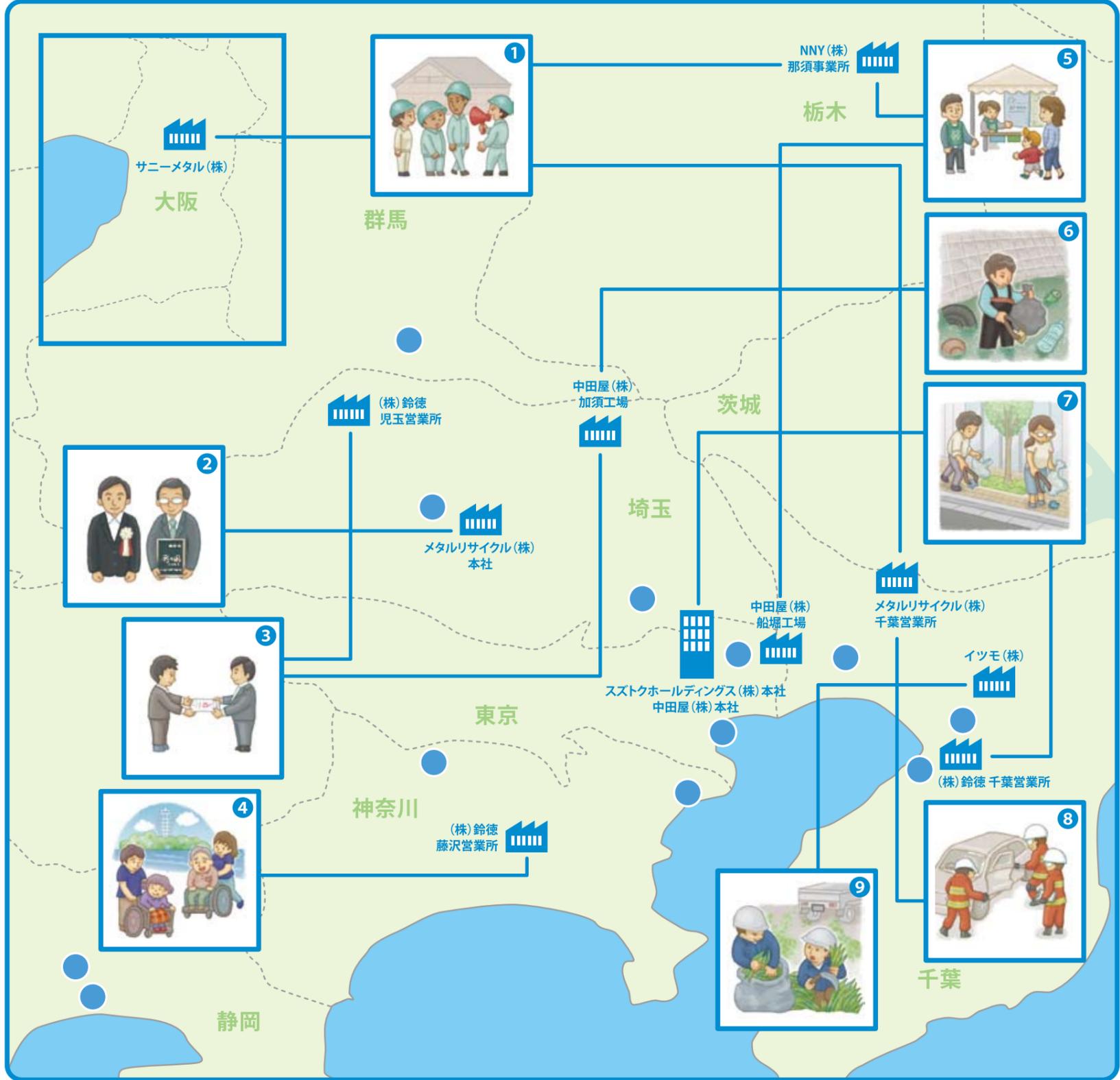
両事業所とも、今回の評価を糧に、さらに効果的な施策を検討・実施していきます。



### 4 車いす利用者の江の島登頂を支援

藤沢湘南ライオンズクラブが開催している「車いす利用者のための江の島見学会」。このイベントに、今年度も(株)鈴徳 藤沢営業所の社員がボランティアとして参加しました。

2014年10月に開催されたイベントでは、参加した社員がお年寄りの車いすを押し、軽自動車での移動助などを実施。車いすではなかなか登ることが難しい頂上までの道のりをサポートしました。

### 5 環境イベントに参加

多くの人に、環境問題へ関心を持ってもらうことを目的としたイベント「アースデイ東京2015」。このイベントに、中田屋(株)船堀工場から1名が参加し、特設ブースの運営や、ゴミ拾い活動などを行ないました。ブースでは、木の葉型の付箋に書いた環境保護メッセージをボードに貼り、1本の木をつくる「今日から出来る環境宣言」を実施。子供からお年寄りまで、幅広い方と一緒に、環境保護の大切さをあらためて考える機会となりました。

また、NNY(株)は、大田原市などの祭事にて全13回の小型家電回収イベントに参加し、回収を実施。持ち込まれた廃棄家電の受付と、小型家電リサイクルのいっそうの認知度向上を目指しました。



### 6 近隣事業者と合同で河川を清掃

中田屋(株)加須工場では、近隣を流れる会の川の清掃活動を実施しました。毎年恒例となったこの活動では、近隣の工場事業者と共同で、川に落ちているゴミを回収。継続的に実施してきた結果、川に落ちているゴミの量は年々減少傾向にあります。

当日は、加須工場の社員が1名参加。トラックや重機も出し、作業効率化に貢献しました。



### 7 拠点周辺の清掃活動を実施

今年度も各拠点が周辺地域の清掃活動を行ないました。

たとえば、東京・大手町と両国では、スズクホールディングス(株)、(株)鈴徳、中田屋(株)の本社スタッフがゴミ拾い運動を実施。延べ18名が参加し、きれいで暮らしやすい街づくりに貢献しました。また、(株)鈴徳 千葉営業所は、毎月10日・20日・30日に拠点周辺の草取り・清掃活動を実施。今後も継続する予定です。

そのほか、毎日の営業開始前の清掃活動なども各拠点で励行し、環境負荷の少ない事業所運営を目指しています。



### 8 消防局の救助訓練に廃自動車を提供

毎年1回、3月に実施される柏市消防局のレスキュー訓練に、今年度もメタルリサイクル(株)が協力しました。この訓練は、消防局の新人隊員が、事故車から乗員を救助する方法を学ぶもの。メタルリサイクルが提供した解体処理前の廃自動車を使い、効率的なドアの外し方や、ガラスの割り方などを実地研修しました。この取り組みにより、柏市消防局から感謝状をいただいています。



### 9 駐車場の草刈りを実施

廃棄物の運搬業務を主に行なうイツモ(株)では、トラックを停車するスペースの草刈りを定期的実施しています。これは、常にきれいな駐車場を維持することで、ドライバーが停めやすくなることはもちろん、近隣住民にも不快な思いをさせない事業所運営を心掛けているもの。ゴミなどの不法投棄を抑制する効果もあるため、今後も継続的に行なっていきます。



## 労働安全衛生の確保・推進

「安全」は業務上のすべてに優先されます。  
作業現場の無用なリスクを排除し、事故やケガなく働ける環境をつくることは、企業に課せられた責務。  
スズクグループは、労働安全衛生の高度な管理体制を確立し、事故予防に努めています。

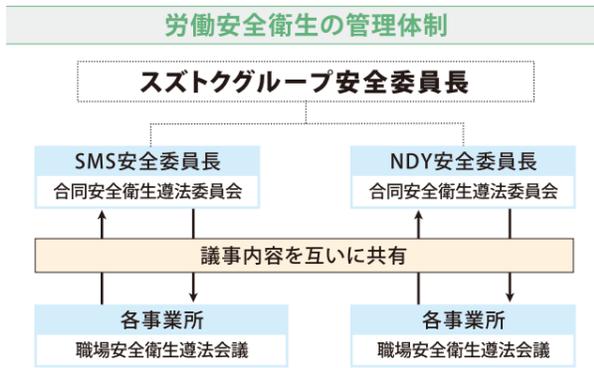
### 労働安全衛生体制の概要

#### 労働安全衛生の管理体制

技術の進歩や社会要請の変化にともない、資源リサイクル業が取り扱う品物は日々変化しています。品物が変われば、それらを扱う際の注意点も変わります。つまり業務の現場では、変化するリスク要因を正しく把握し、適切に対処するための仕組みを整備することが求められます。

スズクグループは、そのための体制として高度な労働安全衛生管理体制を整備。スズクグループ安全委員長の下、SMS、NDY\*の各グループが合同安全衛生遵法委員会を設置し、各種安全施策を立案・実施しています。

※SMS…鈴徳、メタルリサイクル、新生からなるグループ  
※NDY…中田屋、サニーメタル、フェニックスメタル、NNY、イツモからなるグループ



スズクグループ安全委員長の下、SMS、NDYそれぞれの合同安全衛生遵法委員会が、各グループ企業の安全施策などを管轄。一方の各事業所にも職場安全衛生遵法会議を設置し、委員会と密な連携をとっています。

SMS合同安全衛生遵法委員会



それぞれのグループの合同安全衛生遵法委員会が、3カ月に1回のミーティングを実施。拠点の視察を行なうほか、安全管理上の重要項目などを共有する場としています。

NDY合同安全衛生遵法委員会



### 今年度の具体的な取り組み

今年度も、SMS、NDYのそれぞれのグループが、さまざまな取り組みを実施しました。

SMSグループは、これまで行ってきた取り組みを継続的に強化。月に1度、SMS安全委員長が各拠点を視察し、機器のメンテナンス状況や、廃棄物の保管状況などを確認する「安全パトロール」などを実施しました。その情報は、3カ月に1度の合同安全衛生遵法会議で全拠点に共有。さらなる安全対策の徹底につなげています。

一方のNDYグループでは、各拠点の安全管理状況を互いに視察する現場訪問を実施。NDY安全委員長のほか、各拠点長や労働安全衛生管理担当者が参加し、取り組み内容を共有する機会としました。また今後の施策として、労働安全に関する外部講習への積極的な参加も推進予定。社外の知見を取りこみ、「安全衛生推進者」の資格取得といった、具体的な成果につなげていく計画です。



防災訓練  
各拠点が定期的な防災訓練を実施。消火器や放水銃の扱い方などを再確認し、万一の際に備えています。

中田屋(株)伊勢崎工場



フェニックスメタル(株)市原事業所

### 今年度の成果——「災害ゼロ」を継続

中田屋(株)伊勢崎工場は、2005年から10年以上、「人身無事故無災害」を継続中。2015年6月30日現在で3714日を達成し、現在もその記録は更新中です。

同工場では今年度「心にゆとりを持って安全作業」というスローガンを設定。焦らず、一つひとつの作業を確実に進める意識を持つことで、人的ミスに起因するリスクを予防しています。また、今年度は、伊勢崎工場に新たに1名の社員が入社しました。熟練の社員同様、新人も同じく事故を起こさないようにするには、日頃のコミュニケーションがカギになります。同工場は、先輩社員の声かけや、作業時のサポートを徹底。個々人のスキルに頼らず、安全に業務が進められる環境を実現しています。

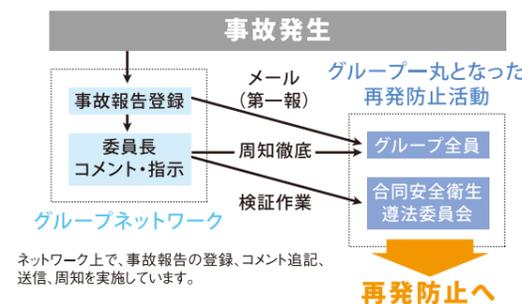
「災害ゼロ」は、すべての工場が目指すべき記録。今後も気を緩めることなく、安全操業を継続していきます。

### 事故の再発を防ぐ「事故報告システム」

もちろん、どれだけ対策を打っても、事故を100%防ぐことはできません。スズクグループでは、起こってしまった事故の情報を全社共有のデータベースに登録。いつでも確認できるようにして、再発防止につなげています。この仕組みが「事故報告システム」です。

事故報告システムでは、日時や発生経緯、原因といった項目ごとに事故の概要を管理。運用開始から現在までの事故例が検索・閲覧できるため、頻発する事故には重点的に対策を打つといったことが可能です。合同安全衛生遵法委員会では、このシステムを参照し、具体的な予防策に関する情報を定期的に全社へ発信しています。

#### 事故報告システム



#### 事故数の推移



CASE 1 物損事故

荷下ろし時にトラックを破損



発生状況と原因

入荷した鉄のかたまりをトラックから下ろす際に発生した事故。  
天井クレーンのオペレーターである社員Aが、運転席から荷台の品物の形状を確認、荷下ろし作業を開始。品物の上部をつかんで持ち上げたところ、1つだと思っていたかたまりの半分が分かれて落下した。かたまりはトラックを直撃し、荷台の側面が大きくゆがんだ。  
原因は、1つに見えたかたまりが、細いワイヤーで結ばれた2つのかたまりだったこと。それに気付かなかった作業員が、上部だけをつかみ、持ち上げたことによるものであった。

考えられる予防策(3択)

- ① 事前に複数の方向から品物を確認する
- ② 天井クレーンを使わず、人力で下ろす
- ③ 顧客自身に荷下ろししてもらう

CASE 2 人身事故

場内の柱に頭を強打



発生状況と原因

業務終了後、工場内を清掃していた際に発生した事故。  
社員Bは、設備の支柱が頭上に張り出している箇所を、中腰の体勢になってほうきで掃いていた。作業中、前進しようとしたところ、頭を上げてしまい、鉄の柱に後頭部を強打してしまった。  
保護帽を被っていたため、Bの頭部などに外傷はなかったが、念のため病院を受診。むち打ちにより全治1週間と診断された。

考えられる予防策(3択)

- ① 危険な場所の掃除はなるべく避ける
- ② 柱などに注意を促すしるしをつける
- ③ 周囲が見やすいよう保護帽を脱いで作業する

発生状況と原因

他事業所に荷物を運ぶため、高速道路をトラックで走行していた際の事故。  
前方を走る大型トラックの荷台から突然、社員Cのトラックに向かって、小さな白い物体が飛来した。危険を感じたCは、とっさに避けようとしたが、高速走行中のため対処できず、飛来物はそのままCのトラックのボンネットに衝突した。  
さいわい、飛来物が小さな布きれだったため、ぶつかった衝撃もなく大事故は回避。トラック自体にも損傷はなかった。

考えられる予防策(3択)

- ① 万一の事態に対応できるよう時速40kmで走る
- ② トラックに大型のバンパーを取り付ける
- ③ 他の車との距離を十分とって走行する

CASE 3 被害者になるリスク

車で走行中、飛来物に衝突



CASE 4 重大事故

爆発・火災



発生状況と原因

設備稼働中に起こった火災事故。  
その日は、午後に設備点検を予定しており、社員D・Eは、できる限り多くの品物をそれまでに処理してしまおうと急いでいた。  
Dは地上で入荷した品物を確認。その後、Eが天井クレーンを操作して品物を持ち上げ、ギロチンに投入・切断する作業を行っていた。そうしたところ、突然ギロチン内で爆発と火花が発生。D・Eは慌てて消火器を手に取り、火元に噴射した結果、大規模火災は未然に防ぐことができた。  
原因は、処理した品物に可燃性の溶剤が付着した缶が混ざっていたこと。そこに、切断時に発生した火花が引火し、燃え広がったものであった。

考えられる予防策(3択)

- ① 可燃性の溶剤が付いた品物は少しずつ処理する
- ② 可燃性の溶剤が付いた品物は水で洗う
- ③ 可燃性の溶剤が付いた品物は受け入れない

「安全」はすべてに優先する  
再考・事故 予防の勘所

工場現場の作業では、「安全」を確保すること  
事故予防のためにさまざまな対策  
リサイクルやものづくりの現場でありがちな4つのケー

が何よりも大切。スズクグループ各社も、  
を実施している。そこで今回は、  
スを例に、最適な事故予防策をあらためて考えたい。

正解と改善案

CASE 1 正解 ▶ ①

荷下ろしは、最も事故が起こりやすい作業の一つ。車を傷つける可能性があるばかりか、お客様にケガをさせてしまう可能性もあり、作業には十分な注意を払わねばなりません。  
対策は、①のように品物の形や重心をしっかりと確認してから作業し始めることが基本。そのためには、地上のスタッフと2人体制で確認したり、鏡やモニターを設置して違った角度から確認できるような環境をつくるのが望まれます。②は今回の荷物の場合、ケガの危険があり不適切でしょう。③はもちろん論外です。

CASE 2 正解 ▶ ②

工場には鉄柱や回転物などが多数あるため、ちょっとした油断がケガにつながります。そのため、たとえ業務終了後でも、場内では保護具を着用することがルール。③は×です。  
また場内をきれいに保つことは、余計なリスクを発生させないために不可欠。①は、清掃されていないエリアが残ることになり、正解とはいえません。つまり正解は②。作業員が周囲をよく見ることが前提ですが、警戒色のテープを貼ったり、ひもをぶら下げるといった対策はリスク低減に有効でしょう。根本対策として、危険な場所に入らずにすむ柄の長いほうきを用意するといった方法も組みあわせれば、一層安全性は高まると思います。

CASE 3 正解 ▶ ③

これは防ぐのが難しい事故ですが、強いて言えば③のように、周囲の車との距離を十分空けておくことで、最悪の事態を回避できる確率は高まるでしょう。①は高速道路の制限速度以下になってしまうので×。②も、衝突時の衝撃はやわらげられるかもしれませんが、予防策としては不適切です。  
ただ、むしろこのケースで学ぶべきは、「防ぎようがない事故もある」ということ。そうした意識を常に忘れず、法や社内ルールを遵守した方法で業務を行ってあげれば、万一事故にあった際も、その後の対応などがスムーズに進められます。

CASE 4 正解 ▶ ③

爆発・火災は工場で起こる事故の中でも最悪のものの一つ。絶対に起こさないようにする必要があります。  
①は処理量の多寡によらずリスクは残るため不適切です。②も、水で濡らすとかえって危険な場合があるため×。正解は③です。事前検収で十分に品物を確認し、今回のような品物があれば取り除きましょう。確認手法も見直し、複数名での実施や、専用設備の導入も検討すればなお効果的です。  
また、この事故の場合、点検に間に合わせようと焦り、事前検収が甘くなった可能性もあります。忙しい現場ではこうしたミスが起こりがち。今一度、わが身を振り返ってみましょう。



監修 池嶋 健一氏  
労働衛生コンサルタント

※紹介した事故は実際に起きたものではありません。また掲載した対策はあくまで一例です。実際は、現場の状況やルールを確認してください。



# 365days 現場の声

ここまで紹介した以外にも、グループ各社・各拠点では、社員の能力・技術が最大限発揮されるよう、職場環境や制度の整備など、さまざまな取り組みを進めています。ここでは、今年度1年間の取り組みを、社員の声で紹介します。



フェニックスメタル(株) 市原事業所  
長尾 直樹

## “イクメン”の輪を広げたい!

～3週間の育児有休取得で家族をサポート～



妻が双子を出産するのに合わせ、3週間の有給休暇を取得しました。最近では“イクメン”という言葉が日常的に使われるなど、男性の育児参加を推奨する動きが出てきています。当社でも、育児のための有休取得を申し出た際には「しっかり奥さんを支えるんだぞ」と背中を押してもらえ、心強かったですね。なにより、生まれたばかりの子供たちと妻のそばにいてあげられたことをうれしく思います。ほかの男性社員にも有休取得をぜひ勧めたいですね。



## 同僚からの出産祝いに感激!

～第2子出産で8カ月の育児休暇を取得～

2014年8月から8カ月間、育児休暇を取得し、今年の4月に職場復帰を果たしました。その間、業務を代行してくれていた同僚は、お客様との取引の経緯なども詳細に整理してくれており、スムーズな業務復帰を支えてくれました。また復職後も、勤務時間の短縮といった配慮をしてもらっており、そのおかげで仕事と育児を両立できています。誕生したのは女の子。職場の同僚たちから出産祝いにももらった洋服を着せてあげるのが楽しみです。



(株) 鈴徳 川崎営業所  
占部 奈身子



## 頼られる人材を目指します!

～入社後の不安を社内研修とOJT制度で解消～

2015年の春に中途入社しました。実は以前、別の会社でリサイクルの仕事に従事したことがあるのですが、その後、一度は異業種に転職。ブランクがあることに不安を抱きましたが、廃棄物処理の一連の流れを学べる研修、疑問点は先輩社員にすぐ相談できるOJT制度などで、スムーズに業務に慣れることができました。今は、台貫業務や廃棄物を持ち込まれるお客様の対応、仕分け業務を担当。早く一人前になって、周囲から頼りにされる存在になりたいですね。



フェニックスメタル(株) 市原事業所  
上村 洋祐



中田屋(株) エコソリューション部  
前田 卓也

## 学び続ける気持ちを忘れない!

～社外セミナー／研修で幅広い知識を習得～

今年で入社2年目ですが、社外の有料セミナーや研修などに、複数参加させてもらっています。今年度は、自分の業務に直結するものとして、日本環境衛生センター主催の「産業廃棄物実務管理者研修」を受講。ほかに、営業力向上のための研修などにも参加しました。受講したいと思ったセミナーや研修があれば、受講希望の申請をすることもできます。業務に必要な知識を学ぼうという気持ちを尊重してもらえのがうれしいですね。



スズクホールディングス(株)  
遵法・環境室 高橋 佳奈

## 現場スタッフの業務を支えます!

～廃棄物処理業務を法務面からサポート～



私は、遵法・環境室で毎年行なう監査の資料を作成したり、各拠点の契約書に不備がないかなどをチェックする係を担当しています。もし、書類に不備があれば、営業停止などの事態にもつながりかねません。そのため、細心の注意を払って業務に当たることはもちろん、廃棄物処理法の講習会に参加するなど、知識習得にも努めています。これからもグループの業務を支えられるよう、知識と経験の蓄積に努めます。



## 40年の経験を後輩に伝えたい

～再雇用制度を活用、後進の育成に努める～

定年退職後、2014年7月から再雇用制度を利用。千葉工場で、鉄原料の仕分けを行なう天井クレーンの操縦士として勤務を続けています。中田屋で約20年、以前の職場も含めるともう40年近く、天井クレーンを操縦している計算です。今は2人の後輩に、クレーンの操縦と、納入先ごとに異なる受入基準などをみっちり教えているところ。長年お世話になった恩返しとして、工場のさらなる発展に貢献したいですね。



中田屋(株) 千葉工場  
三浦 哲博



## 家族との思い出が増えました

～有休活用でワークライフバランスを向上～

今年度、子供の卒園式と入学式に合わせて、有給休暇を取得しました。一生に一度のイベントに参加できたことは、親として本当にうれしかったですね。子供もとても喜んでくれました。当社には、こうしたライフイベントの際、有給休暇を効果的に利用しようという雰囲気があります。もちろん、休暇前には責任を持って自分の仕事を終わらせることも全員の共通意識となっています。プライベートと仕事を両立でき、私も同僚も本当に助かっています。



メタルリサイクル(株) 千葉営業所  
福浦 実



(株) 新生  
菊池 賢

## プロとして体調管理も万全に

～アルコール呼気検知器をドライバー全員が携帯～



当社では今年度、13台のアルコール呼気検知器を導入。現在は、収集運搬業務にあたるドライバー全員が、1人1台体制で携帯しています。これを使ってドライバーは、毎朝、呼気チェックを実施し、酒気帯び運転を未然に防いでいます。呼気検知器を常に携帯していると、仕事の前日には自然と「飲み過ぎに注意しよう」という気持ちになり、体調管理面でもメリットがありますね。

スズクグループの「イマ」がわかる

# THE SUZUTOKU TIMES

## HEADLINE

### 「がんばる中小企業・小規模事業者300社」に選出 タイでのリサイクル事業が高評価を受ける

中小企業庁が毎年選定・表彰する「がんばる中小企業・小規模事業者300社」。今年度、スズクホールディングス(株)がその1社に選出され、表彰を受けました。

この制度は、一層の経済活性化と国際競争力強化を図るため、積極的なビジネスを展開する中小企業を支援する目的で国が始めたもの。これまで、革新的な製品の開発や、新たな領域へのビジネス拡大を実現した中小企業が多数選ばれ、表彰を受けています。

今回の選出理由は、2014年10月から操業開始したHIDAKA SUZUTOKU(Thailand) Co., LTD.の取り組み。タイに進出する日本企業が排出する産業廃棄物の再資源化、および環境負荷の抑制といったニーズに大きく応えていることが、中小企業庁や外部有識者などの選考委員に高く評価されました。

中小企業・小規模事業者は、日本企業の約99%を占めるといわれます。私たちは、そうした企業がビジネスを積極的に拡大することは、豊かな日本の未来を築くことにつながると考えています。今回の選出を励みに、スズクグループはこれからも、さまざまな取り組みを行なっていきます。



上段左端がスズクホールディングス(株)取締役 鈴木 徹

## 今年度導入の新設備

リサイクルサービスの高度化のため、スズクグループでは新設備の購入や、定期的な入れ替えにも積極的に投資しています。今年度導入した設備の一部を紹介します。

### 樹脂破砕設備/ フェニックスメタル(株) 市原事業所

家電製品などから取り出されるプラスチックは、細かく破砕したうえで樹脂メーカーに売却しています。そのための樹脂破砕設備は、以前から数台が稼働していますが、処理量が高めるため、今年度は新型機を導入。旧型機の約3倍の性能を持つこの設備により、取扱量増加にも対応できる体制を整えました。



### メタルソータ/ メタルリサイクル(株)

振動ふるい機にかけてばらけさせたダストを、高性能なセンサーとカメラで確認。混じった有価金属にピンポイントでエアを当て、回収する機械です。光の反射で品物を見分けるといった高度な技術が用いられており、非常に細かい有価物も取り出すことが可能。リサイクル回収率の引き上げに貢献しています。



### マルチセンサー選別機/ (株) 鈴徳 児玉営業所

センサーの感度を変えることで、さまざまな品物の分別処理が行なえる設備です。児玉営業所では現在、硬質の物質の中から、非鉄金属や被覆線のカバーなどを取り除くために使用。日々の運用のなかでセンサーを微調整しながら、最も確実に有価物が回収できる設定を追求しています。



## スズクグループ企業理念

事業活動を行なううえで果たすべき「4つの責任」。  
グループではこれを常に忘れることなく、高度循環型社会の形成に貢献していきます。

### 1 お客様に対する責任

すべてのお客様・お取引先様との共存共栄を第一とします。そして、可能な限り質の高いサービス・品質で皆さまのニーズにお応えします。

### 2 社員に対する責任

社員を個人として尊重し、その能力・技術が最大限発揮できるよう、公正で風通しがよい組織、また安全で働きやすい職場環境をつくりまします。

### 3 社会に対する責任

常に社会の一員であることを自覚し、法令並びに社会ルールを順守して地域との共生を図ります。また環境配慮に努め、資源リサイクル事業を進めます。

### 4 株主に対する責任

バランスのとれた健全かつ安定した経営を続け、適正な利潤の確保と事業の発展に努め、株主に対して適正な配当を行います。

## 企業行動憲章 (一社)日本経済団体連合会 ————— 社会の信頼と共感を得るために

企業は、公正な競争を通じて付加価値を創出し、雇用を生み出すなど経済社会の発展を担うとともに、広く社会にとって有用な存在でなければならない。そのため企業は、次の10原則に基づき、国の内外において、人権を尊重し、関係法令、国際ルールおよびその精神を遵守しつつ、持続可能な社会の創造に向けて、高い倫理観をもって社会的責任を果たしていく。

1. 社会的に有用で安全な商品・サービスを開発、提供し、消費者・顧客の満足と信頼を獲得する。
2. 公正、透明、自由な競争ならびに適正な取引を行う。また、政治、行政との健全かつ正常な関係を保つ。
3. 株主はもとより、広く社会とのコミュニケーションを行い、企業情報を積極的かつ公正に開示する。また、個人情報・顧客情報ははじめとする各種情報の保護・管理を徹底する。
4. 従業員の多様性、人格、個性を尊重するとともに、安全で働きやすい環境を確保し、ゆとりと豊かさを実現する。
5. 環境問題への取り組みは人類共通の課題であり、企業の存在と活動に必須の要件として、主体的に行動する。
6. 「良き企業市民」として、積極的に社会貢献活動を行う。
7. 市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体とは断固として対決し、関係遮断を徹底する。
8. 事業活動のグローバル化に対応し、各国・地域の法律の遵守、人権を含む各種の国際規範の尊重はもとより、文化や慣習、ステークホルダーの関心に配慮した経営を行い、当該国・地域の経済社会の発展に貢献する。
9. 経営トップは、本憲章の精神の実現が自らの役割であることを認識し、率先垂範の上、社内ならびにグループ企業にその徹底を図るとともに、取引先にも促す。また、社内外の声を常時把握し、実効ある社内体制を確立する。
10. 本憲章に反するような事態が発生したときには、経営トップ自らが問題解決にあたる姿勢を内外に明らかにし、原因究明、再発防止に努める。また、社会への迅速かつ的確な情報の公開と説明責任を遂行し、権限と責任を明確にした上、自らを含めて厳正な処分を行う。

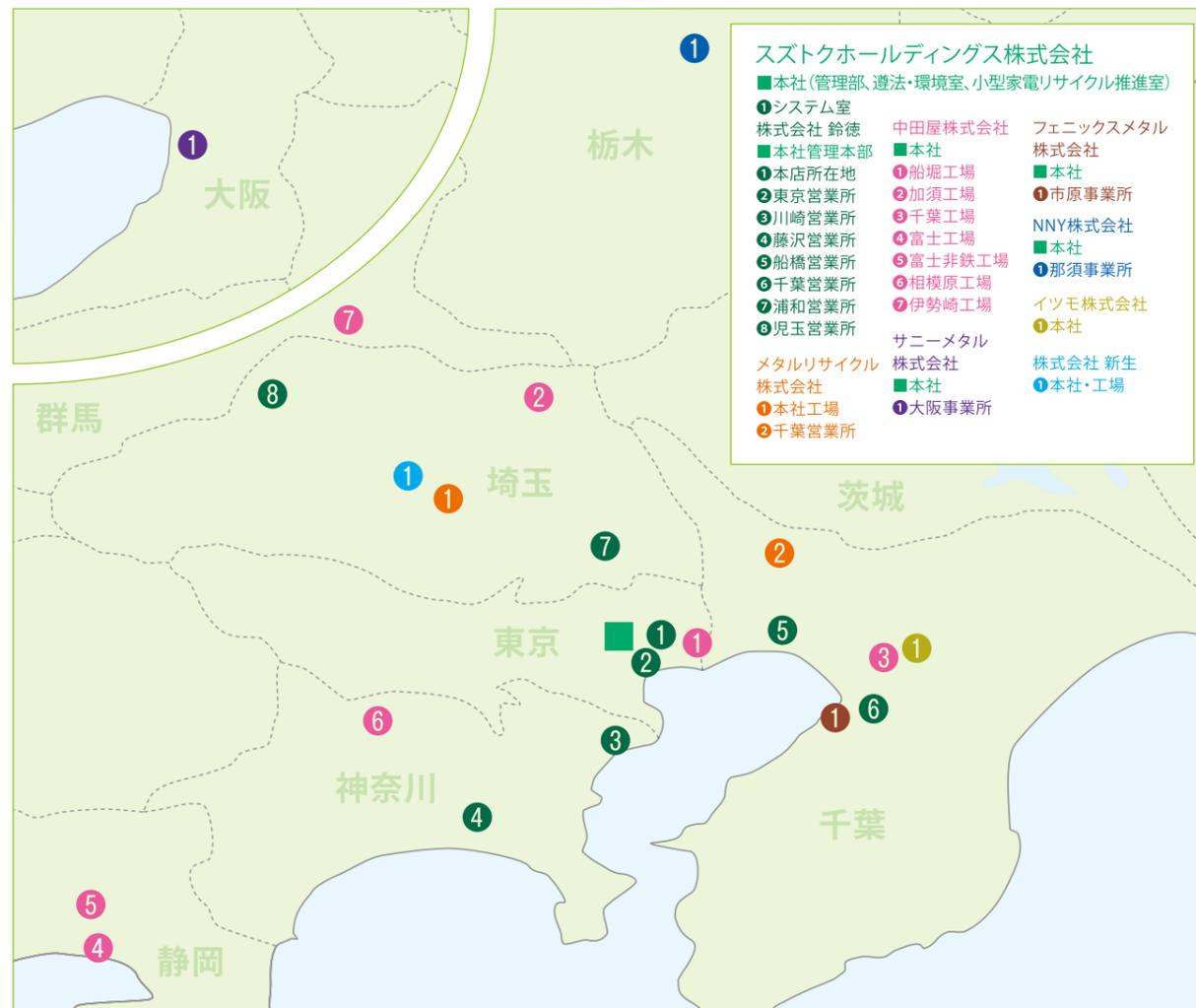
2010年7月より、スズクホールディングス(株)は日本経済団体連合会に加盟。当グループは、企業行動憲章の理念を順守し、循環型社会の一翼を担ってまいります。



# スズクグループ概要・会社紹介

全社のコンプライアンスなどを統括するスズクホールディングスと、計8つの事業会社が互いに連携。お客様の悩みを解消する、高品質なリサイクルサービスを提供します。

## グループ拠点一覧



- スズクホールディングス株式会社**  
 ■本社(管理部、遵法・環境室、小型家電リサイクル推進室)  
 ①システム室  
 ■本社管理本部  
 ①本店所在地  
 ②東京営業所  
 ③川崎営業所  
 ④藤沢営業所  
 ⑤船橋営業所  
 ⑥千葉営業所  
 ⑦浦和営業所  
 ⑧児玉営業所
- 中田屋株式会社**  
 ■本社  
 ①船堀工場  
 ②加須工場  
 ③千葉工場  
 ④富士工場  
 ⑤富士非鉄工場  
 ⑥相模原工場  
 ⑦伊勢崎工場
- フェニックスメタル株式会社**  
 ■本社  
 ①市原事業所  
 NNY株式会社  
 ■本社  
 ①那須事業所
- イットモ株式会社**  
 ■本社  
 ①本社
- サニーメタル株式会社**  
 ■本社  
 ①大阪事業所
- メタルリサイクル株式会社**  
 ■本社  
 ①本社工場  
 ②千葉営業所
- 株式会社 新生**  
 ①本社・工場

### スズクホールディングス株式会社

事業会社8社を統括する持株会社。管理部、システム室、遵法・環境室、小型家電リサイクル推進室が設置されており、グループの事業統括、システム管理、コンプライアンスなどを担います。また、小型家電リサイクルの認定事業者として、グループへの処理委託も行なっています。

- 設立 2007年7月
- 資本金 1億円
- 売上高 9億8,600万円(2015年6月期)
- 社員数 26名
- 所在地  
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-7-2  
東京サンケイビル15F(本社:管理部、遵法・環境室、小型家電リサイクル推進室)  
〒130-0021 東京都墨田区緑1-4-19(システム室)
- 連絡先  
TEL:03-5204-1890(本社代表)  
03-5625-2710(システム室)  
E-Mail:holdings@suzutoku.co.jp

### 主な財務関連データ(グループ全体)

売上高*1	519億1,200万円
経常利益*1	16億9,000万円
従業員数*2	643人

※1 グループ事業会社8社の直近決算数値を単純合算したもの(経常利益はスズクホールディングス株式会社を含むグループ全9社)  
 ※2 2015年6月30日現在。経営層を含み、派遣・請負作業の従事者は除く

### 株式会社 鈴徳

鉄を中心とする金属のリサイクル業を主としながら、一部、産業廃棄物処理も行なっています。創業111年の歴史と実績を基に、東京および近郊全7カ所の工場で事業を展開しています。

- 設立 1935年2月(創業1904年2月)
- 資本金 1,000万円
- 売上高 155億8,900万円(2015年2月期)
- 社員数 130名
- 本社管理本部 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-7-2 東京サンケイビル15F
- 本店所在地 〒130-0021 東京都墨田区緑1-4-19
- TEL 03-3510-2361

#### 取扱品目

金属スクラップ	343,136 t
産業廃棄物	11,393 t
廃自動車	1,221 t
廃自販機	237 t

### メタルリサイクル株式会社

金属のリサイクル、産業廃棄物処理に加え、使用済み自動車の引き取りから破碎までの一貫処理が可能。廃自動車から回収した中古パーツは一般のお客様向けに販売も行なっています。

- 設立 1999年11月
- 資本金 9,000万円
- 売上高 49億1,800万円(2015年2月期)
- 社員数 96名
- 本社 〒350-0166 埼玉県比企郡川島町戸守440
- TEL 049-297-2111

#### 取扱品目

金属スクラップ	52,886 t
産業廃棄物	4,180 t
廃自動車	33,404 t
廃自販機	581 t

### 中田屋株式会社

関東および静岡県の7拠点で、鉄・非鉄のリサイクル、産業廃棄物、廃自動車、廃自販機の処理、家電リサイクルなどを幅広く展開。そのほか、全国での廃棄物処理ネットワークを構築しています。

- 設立 1951年1月
- 資本金 1億円
- 売上高 176億8,300万円(2014年10月期)
- 社員数 180名
- 本社 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-7-2 東京サンケイビル15F
- TEL 03-5204-1886

#### 取扱品目

金属スクラップ	267,964 t
産業廃棄物	17,352 t
廃自動車	35,722 t
廃自販機	370 t
廃家電	10,731 t
古紙	1,928 t

### サニーメタル株式会社

グループ唯一の関西拠点。主に産業廃棄物、資源ごみなどのリサイクルを行なうほか、家電リサイクルも実施しています。また、地域で唯一のシュレッダーを持つ事業所でもあります。

- 設立 1986年6月
- 資本金 1億円
- 売上高 21億6,100万円(2015年3月期)
- 社員数 38名
- 本社 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-7-2 東京サンケイビル15F
- 事業所 〒554-0052 大阪府大阪市此花区常吉1-1-13
- TEL 06-6461-2818

#### 取扱品目

金属スクラップ	11,087 t
産業廃棄物	6,826 t
廃自動車	11,886 t
廃自販機	2,728 t
廃家電	5,694 t

### フェニックスメタル株式会社

グループ随一の敷地面積を誇る事業所により、大量の品物の処理が可能。鉄・非鉄、産業廃棄物から家電まで、多彩な品目のリサイクル処理を行なっています。

- 設立 1987年12月
- 資本金 1億円
- 売上高 78億6,000万円(2015年3月期)
- 社員数 44名
- 本社 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-7-2 東京サンケイビル15F
- 事業所 〒290-0067 千葉県市原市八幡海岸通7-3
- TEL 0436-43-1261

#### 取扱品目

金属スクラップ	98,930 t
産業廃棄物	5,770 t
廃自動車	113,684 t
廃自販機	3,325 t
廃家電	19,691 t

### NNY株式会社

重液選別機によるミックスメタルの高精度な選別回収を行ない、グループのリサイクル率向上に貢献しています。そのほか、家電や廃プラスチックのリサイクルなども行なっています。

- 設立 1989年10月
- 資本金 5,000万円
- 売上高 19億9,600万円(2014年8月期)
- 社員数 32名
- 本社 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-7-2 東京サンケイビル15F
- 事業所 〒324-0036 栃木県大田原市下石上1505-11
- TEL 0287-29-2777

#### 取扱品目

金属スクラップ	1,985 t
ミックスメタル	27,245 t
産業廃棄物	453 t
廃自動車	29 t
廃家電	5,446 t

※取扱品目:2014年7月1日~2015年6月30日、保有輸送用車両:2015年6月30日現在

### イツモ株式会社

グループの運送部門を担当。計99台の車両により、1都1府24県での産業廃棄物収集運搬業を展開しています。また、一般貨物自動車運送事業、第一種利用運送事業の許可も取得しています。

- 設立 1961年5月
- 資本金 5,000万円
- 売上高 12億8,800万円(2015年3月期)
- 社員数 75名
- 本社 〒263-0004 千葉県千葉市稲毛区六方町210
- TEL 043-423-3415

保有輸送用車両	
4トン車	2台
8トン車	14台
トラクタ	23台
セミトレーラー	24台
12~15トンドンプ	19台
10~15トントラック	17台
(計99台)	

### 株式会社 新生

関東を中心に1都8県で廃棄物収集運搬業を展開。そのほか、機密文書をはじめとする古紙の処理、木材のチップ化など、グループでも他に類を見ない品目の処理を行なっています。

- 設立 1993年10月
- 資本金 7,500万円
- 売上高 4億1,800万円(2014年8月期)
- 社員数 22名
- 本社 〒355-0812 埼玉県比企郡滑川町都25-21
- TEL 0493-57-2170

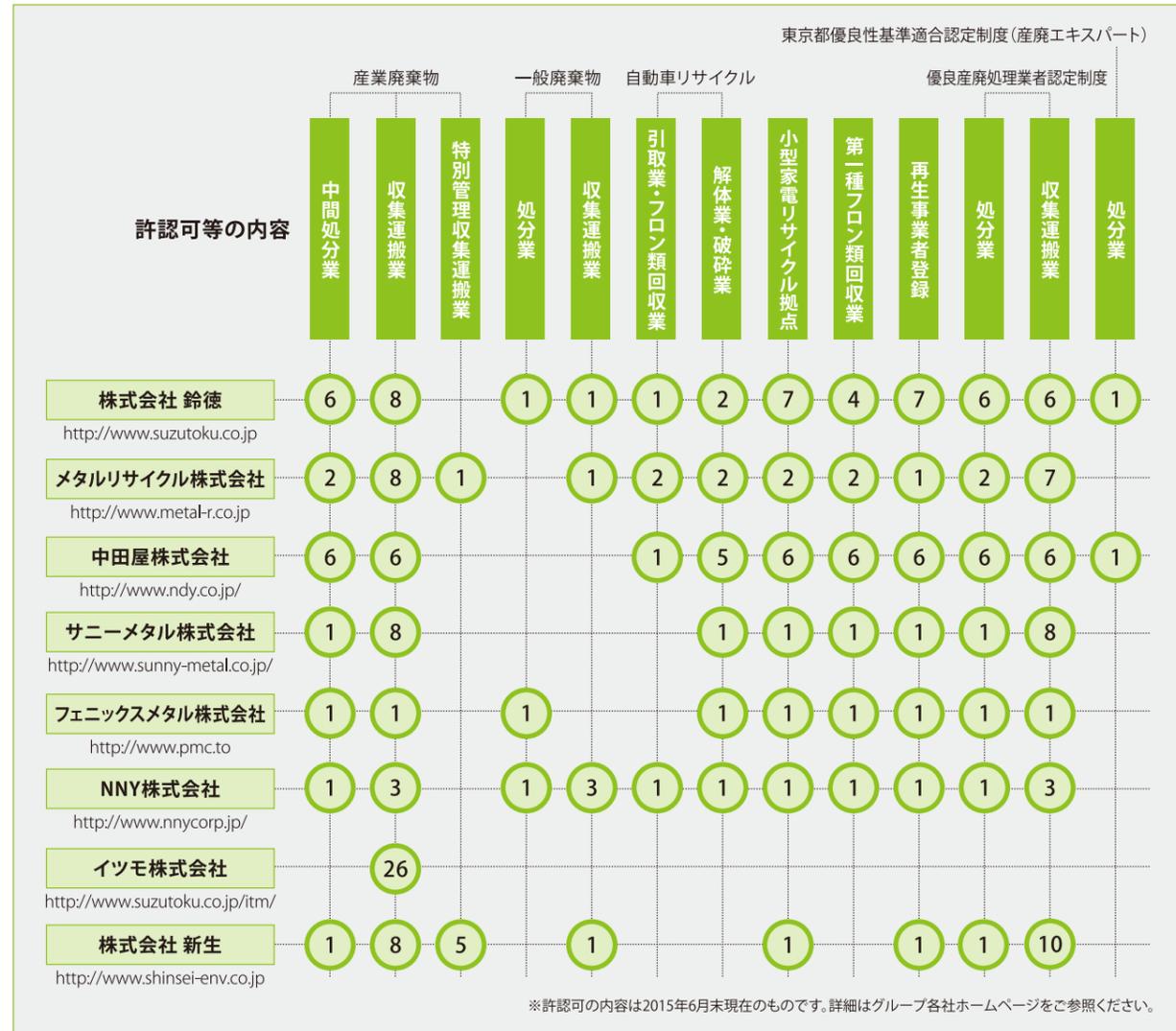
取扱品目	
金属スクラップ	1,531 t
産業廃棄物	3,544 t
古紙	731 t

保有輸送用車両	
2トン車	4台
4トン車	11台
10トン車	1台
(計16台)	

※取扱品目:2014年7月1日~2015年6月30日、保有輸送用車両:2015年6月30日現在

### 許認可・登録の概要 (取得自治体数)



## スズクグループ「環境社会報告書 2015」への第三者意見

グループ横断的にマネジメントの質が高まっています。

廃棄物処理・リサイクルの業界に対しては、従来、不法投棄防止などの法令遵守と、さまざまな質の廃棄物を取り扱うがゆえの労働災害の防止が、特に求められてきました。スズクグループにおいては、遵法・環境室を中心に内部監査と社内教育を進め法令遵守を確保するとともに、災害・事故情報を共有することなどによって災害の未然防止に努めています。

特に、これらをグループ横断的な取り組みとして、その効果を高めている点が優れています。今年の報告書では、新しい取り組みとして、各拠点の責任者をグループ内の別の拠点の内部監査に同行させる仕組みを始めたことが報告されています。事故情報についても全社共有の事故報告システムに登録する仕組みを運用しています。この結果、遵法監査での指摘件数や事故数が徐々に減少してきています。大変優れた取り組みであると評価できます。

総合リサイクル業のモデル企業として業界を牽引することを期待します。

スズクグループでは、各拠点がそれぞれ個別の目標を掲げて取り組みを進めています。本報告書においては、2014年度の目標未達成項目が3件あることが掲載されていますが、何が未達成だったかが読み取れません。報告書としては、未達成だった目標の内容と理由の双方を掲載すべきだと思います。

また、事業活動から排出される二酸化炭素排出量が、再生資源出荷量当たりの原単位で徐々に増加してきています。これは、震災以降、電力会社が使用する化石燃料比率が増加し、電力の二酸化炭素換算係数が悪化していることに影響されています。グループ内の努力を見えやすくするために、再生資源出荷量当たりのエネルギー消費量という指標に切り替えることも一案です。

高度成長期に建設されたさまざまな建築物・構造物が更新期を迎える中、リサイクル業界の重要性がますます高まっていくところで、総合リサイクル業のモデル企業として、今後とも本業界を牽引していただきたいと思います。



千葉大学大学院 人文社会科学部 教授  
倉阪 秀史氏

1964年三重県生まれ。87年東京大学経済学部経済学科卒業。同年、環境庁入庁。環境基本法、環境影響評価法などの立案に従事。98年千葉大学法経学部助教授、2008年より同教授、2011年より現職。専門は、環境政策論、環境経済論。主著『環境政策論【第3版】』（信山社）、『環境を守るほど経済は発展する』（朝日選書）、『環境と経済を再考する』（ナカニシヤ出版）、『政策・合意形成入門』（勁草書房）など。

### 編集方針

本報告書は、グループ各社の持株会社スズクホールディングス(株)の設立(2007年7月2日)後、8回目の環境社会報告書となります。スズクグループの企業理念である「4つの責任」に則り、環境、社会全般にわたる取り組みを包括的に記載しております。グループをご理解いただくための一助となるよう、今後もさらに報告内容の充実を図ってまいります。

#### ■ 報告対象範囲

スズクホールディングス(株)とグループ会社8社を報告対象としています(P24~26参照)。

#### ■ 対象期間

2014年7月から2015年6月 ※これ以外の期間に集計した数値などは、その旨を該当ページ内に明記しました。

#### ■ 次回発行予定

2016年9月を予定しています。

#### ■ 本冊子に関するお問い合わせ

スズクホールディングス株式会社 <http://www.suzutoku.co.jp/ho/> ※ご意見・ご感想については、メールアドレス [holdings@suzutoku.co.jp](mailto:holdings@suzutoku.co.jp) までお寄せください。

